

---

# ARIA THE IF ~とある青年とアクアの人々~

ニシシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A R I A   T H E   I F とある青年とアクアの人々

### 【Nコード】

N 5 9 1 2 Y

### 【作者名】

ニシシ

### 【あらすじ】

10年前に父親の仕事でアクアから地球に移り住んだ主人公 浅葱<sup>あきそうけ</sup> 宗介<sup>そうけい</sup>。全てが自動化された地球のある程度名の知れたくアクア・ヴィレッタというホテルで退屈だとは思いつつもホテルマンとして勤務していた。そんな時企画部より「火星に支店をだす」という提案が発表された。しかし全自動生活に慣れすぎた従業員はあまり乗り気ではなかった。そこでアクア出身である宗介に白羽の矢がたったのであった。ひょんなことから10年ぶりに故郷に舞い戻ることとなった青年とアクアに住と幼馴染である水先案内人やその後

輩達との出会いや青年のバタバタしつつも充実した生活のお話です。  
今回も駄文になるかとは思いますが時間つぶしなどでんでも読んで  
いただければ幸いです。感想等もお待ちしております。

## navigation・0 主人公紹介（前書き）

ページを閲覧いただいた方々ありがとうございます。

本編開始前に主人公の紹介をいたします。追加や修正も行なっていますのでよろしく願います。

## navigation・0 主人公紹介

名前 あやぎ 浅葱 そつすけ 宗介

年齢 22才

職業 アクア ホテル<アクア・ヴィレッタ>本店 客室乗務員現場補佐  
火星支店客室乗務員現場総括及びその他雑務係。

容姿 黒髪の程よい長さ。ホテルマンらしく清潔にしているがオフの際は多少ボサボサな感じになっていて若干別人に見える。身長は166cmと同じ年齢の男性にしては低い方。

性格 基本人当たりが良く、職業柄が愛想もいい。人の世話を焼く癖がある。

備考 アリシア、晃、アテナ、暁、ウツディ、アルとはミドルスクール時代からの知り合い。生まれは浮島で小さい頃から観光業に興味がありホテルに務めていた父親に憧れよく職場をのぞきに行っていた。父親の転勤で10年前転勤で地球に移住したが全てが自動化された生活にどうも馴染めなかった。18才の時に<アクア・ヴィレッタ>の客室乗務員に就職。選んだ理由が名前にアクアがあつたのとなるべく自分の手で作業がしたくて客室乗務員を希望。がそこも半ば自動化されておりほかの部署となんら変わりなかった。アクアの支店に異動後は客室乗務員兼現場総括でパートの方たちの指導や仕上がった部屋の最終チェックを担当。更にアリシア達と顔見知りという事で水先案内の絡む企画だと交渉役にも駆り出される。オフになるとフラフラと散策するのが趣味。住まいは実家のあった浮島ではなく地上のサンマルコ広場に近いところの空家を借りて一

人暮らしをしている。地上で迷った暁の避難所にもなっていて灯里、藍華、アリスも訪れることもある。

## navigation・01〜久方振りの帰郷〜（前書き）

大変長らくお待たせしました。 第1話投稿ですよ

## navigation・01〜久方振りの帰郷〜

「本日も当空間船をご利用いただき。誠に有難うございます。当船はまもなく水の星、火星アクア、火星アクアでございます。」

船内アナウンスが火星到着を知らせる。宗介は久方振りの帰郷に少し期待に胸を膨らませた。なんせ10年振りの奇矯なのだから・・・  
・ふと今回の帰郷までの経緯を思い出す。

「火星アクアでの支店展開ですか？」

「ああ。ウチのホテルも以前から火星アクアには支店展開の案はあったんだが、まあ、如何せん地球出身マンホームの者はここでの自動化生活に慣れてしまってるから、上も中々話が進んでいなかたっただがな。」

上司はふうつと一息ついた。今日の地球はすべての事が自動化されていた。料理や家事、買い物などは勿論の事、果ては仕事や天候までもが自由自在に操作ができていたのだ。故に人々は何一つ苦渋することなく生活することが出来ていたのだ。一方火星は近年に惑星開拓テラフォーミングされ、昔の地球を丸ごと移植されていた。その中でもかつて水の都と言われたヴェネチアは惑星の70%が水に覆われている火星アクアにとってはうってつけの移動場所となり、かつてのまま完全移植され、ゴンドラ業や工芸品なども受け継がれていた。現在はネオ・ヴェネチアと名を変え、観光旅行にはもってこいのスポットとなっていた。そんな所に今回我ホテル「アクア・ヴィレッタ」の支店をだすらしい。

「そうですね。俺みたいに火星出身アクアならともかく、殆どが地球出身マンホームですからね。ここの従業員達は。」



「まあな。それでな。宗介よ。相談なんだが……お前に、その火星<sup>アクア</sup>に行ってもらいたいのだが。」

「……………マジっすか？」

「マジだ。お前は火星<sup>アクア</sup>出身だし、なにより……」

「なにより？」

「なにより。地球<sup>マンホーム</sup>でもなるべく自分で料理とかしてるそうじゃないか。業務だつて自分でやってると周りからきいてるぞ。」

「まあ。何かそーしないと、落ち着かなくて。元々ここ受けたのもそれがあつたからですし。」

宗介は元は火星<sup>アクア</sup>の出身だつた。10年前に父親の仕事の転勤により地球<sup>マンホーム</sup>へ移り住んできたのだつた。元から自分の手で何かをするのが好きな宗介は地球<sup>マンホーム</sup>来ても自動化された生の中でも自分できる時は自分でしてきたのだ。当然周りからは少し変な目で見られることもあつたが当の本人はガラスの心の持ち主ではないのでさほど気にはならなかつたようだ。＜アクア・ヴィレッタ＞に就職したのは18の時で求人サイトの広告に目を通したときにまずは名前に故郷の名前があつた事。備考に＜地球<sup>マンホーム</sup>で唯一乗務員による接客や客室の管理等の職有り＞という所に惹かれ、給料や勤務時間等には目もくれず申し込んだのだつた。もちろん結果は即採用だつた。

「まあ。お前はよくやってくれたよ。あんな求人ここで人が入ってくるかと思ってたくらいだからな。しかも結構優秀な人材の発見だつたな。残業もするし、面倒な仕事も引き受けてくれるしな。」

「……というか他の人がめんどくさがりなだけです。入社した時よりも自動化が進んで、今じゃほぼ自動制御じゃないですか。どこの部門だって。」

「はははは。まあ、そういうな。上の決めることに現場が意見できないからな。でそこで話を戻すが、お前に火星アクアに行ってもらいたいわけなんだが？」

「まあ。俺としてはいい話ですよ。故郷で働けるし、何より自分の手で掃除とか備品チェックとか出来ますしね。ただ、俺いなくなっても大丈夫ですか？」

「かまわんよ。後の事は全員でフォローしてやるし、何より適正にあった職場を提供するのも上司の仕事だ。ちなみに他の連中だって同じこと言うと思うぞ。なんせお前、あんま楽しそうに仕事してなかったからな。特に2年目以降は。」

「……解りました。それでは改めてその異動の件受けさせていただきます。」

こうして宗介は火星アクアへ行くことになった。与えられた役職は「火星アクア支店客室乗務員現場総括」という、まあ要するに現場監督みたいな役職だった。上司から簡単に今後の日程を聞き、帰宅後直ぐに両親にその事を話すと両親はすんなり承諾してくれた。

「そうか。頑張ってこいよ。おっそうだ。住居の手配なら俺がしておこう。知り合いに安くて良さそうな物件を以前紹介してもらって

な。その時はまだ帰る予定はないって断ったが丁度いいじゃないか。

「

「本当か？助かるよ。親父」

「ふふ。良かったわね。10年振りですものね。あの子達もすっかり大人になってるんでしょね」

宗介は手元にあった火星の観光雑誌を広げページを開いた。そこには3人の女性が載っていた。サブタイトルは「火星に來たら一度はどうぞ！！水先案内人のゴンドラへ」だ。黒い髪に凜とした表情の長身の人が右側。褐色の肌に薄紫の短めの髪の人が左。そして真ん中に金髪で柔らかい、優しそうな微笑みの人。この3人が水先案内人の頂点に君臨する。通称「水の三大妖精」だった。

「晃にアテナ、そしてアリシア。3人とももう有名人だしな。他の連中にも会うのも楽しみだ。」

「そうだな。会ったときはそれなりの礼儀でよろしくいっておくんだぞ」

「そうね。もうただの幼馴染ってわけにもいかないものね。」

「ああ。よろしくいっておくよ。」

それから幾日か過ぎ、宗介は上司と両親と何故か駆けつけた同僚数名に見送られ火星へと飛び立ち今に至るというわけだ。そして間もなく久方振りの故郷へ到着する。10年前だし。色々変わっているに違いない。建物や人々の風景。そして何より10年ぶりに会う知

り合い達。宗介はたくさんの期待と少しの不安？を胸に抱えながら  
着陸するのを楽しみにしていたのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5912y/>

---

ARIA THE IF ~とある青年とアクアの人々~

2011年12月5日08時45分発行